

主な出展リスト

- ◆ポスター
PO-44 映画『赤い靴』ポスター / イタリアフィルム社：日本 / 1962年
PO-17 バレエ・リュス イギリス公演ポスター / リヴァプール・オリンピック：イギリス / 1920年
- ◆プログラム
PR-OT-005 映画『赤い靴』プログラム /アーチャーズ・プロダクション：イギリス / 1948年
PR-OT-009 映画『赤い靴』プログラム / 英国映画文庫：日本 / 1950年
- ◆写真
PH-0-09-05~08 映画『赤い靴』より『赤い靴』『ジゼル』『コッペリア』 / アメリカ / 1950年代
PH-0-09-04 モイラ・シアラー『ホフマン物語』 / モーリス・シーモア撮影 / アメリカ / 1950年代
PH-C-11-063 レオニード・マシーン肖像 / モーリス・シーモア撮影 / アメリカ / 1938年
PH-D-065-01ws セルゲイ・ディアギレフ肖像 署名入り / ロシア / 年代不詳
- ◆葉書
PC-S-01 ワツラフ・ニジンスキー&タマラ・カルサヴィナ『ジゼル』 / ロシア / 1908年
PC-B-113-02 アンナ・パウロワ『コッペリア』 / イギリス / 1910年代
PC-B-067-05 タマラ・カルサヴィナ『ジゼル』 / ロシア / 1910年代
PC-W-003 アレクサンドラ・ダニロワ&レオニード・マシーン『風変わりな店』 / イギリス / 年代不詳
- ◆書籍
BK-0329-bio 『ロバート・ヘルプマン伝記』 / エリザベス・ソルター著 / アンガス&ロバートソン出版：イギリス / 1987年
BK-0409-bio 『バレエ・マスター：ジョージ・バラシンのダンサーの視点』 / モイラ・シアラー著 / シングウィック&ジャクソン出版：イギリス / 1988年
BK-0912-pie 『The Story of the Ballet：ラ・シルフィード』 / ジョージ・ホール著 / バレエブックス出版：イギリス / 1960年代
BK-0913-pie 『The Story of the Ballet：コッペリア』 / 同上
BK-0915-pie 『The Story of the Ballet：白鳥の湖』 / 同上
- ◆限定書籍
AB-006 ワツラフ・ニジンスキー『ジゼル』ジョルジュ・バルビエ画 / ア・ラ・ベル・エディション：フランス / 1913年
- ◆小物類
ME-01 セルゲイ・ディアギレフ ブロンズメダル / ディアギレフ財団 / ロシア / 年代不詳
ME-02 セルゲイ・ディアギレフ ブロンズメダル / ヘルミ国際バレエコンペティション『アラバスク』 / ロシア / 1992年
SA-13 セルゲイ・ディアギレフ 石板肖像画 / レオン・バクスト画 / ロシア / 年代不詳
SA-01 コスター箱入り6枚セット『ジゼル』『白鳥の湖』『レ・シルフィード』他 / ウィンテージ・ウィン・エル・ウェア：イギリス / 1950年代
- ◆参考映像資料・文献
* 映画『赤い靴』マイケル・パウエル、エメリック・プレスバーガー製作・脚本・監督 / モイラ・シアラー、レオニード・マシーン他 出演 / イギリス映画 / 1948年
* マーティン・スコセッシ監督 デジタルリマスター・エディション『赤い靴』DVDリーフレット 株式会社デライト・紀伊国屋書店 2011年
* 鈴木晶『バレリーナの肖像』新書館 2008年
* Craine, Debra & Mackrell, Judith 『The Oxford Dictionary of Dance』Oxford University Press 2000

同時開催

「薄井憲二バレエ・コレクション10周年を振り返る」

1930年代から収集され、現在も収集の続く「薄井憲二バレエ・コレクション」は、バレエの誕生から現代までを網羅しており、個人が収集したものとしては世界でも有数の規模を誇る、極めて貴重なコレクションといえます。

兵庫県立芸術文化センターでは、開館以来、常設展と企画展という2つの形式で、皆様にコレクションの魅力をお伝えする機会を設けてきました(常設展は2006年10月以来50回、企画展は2007年8月以来16回開催)。また、2012年から、カタログ(目録)を発刊しております。第1巻(プログラム・バレエ台本)、第2巻(書籍・雑誌)、第3巻(アンティークプリント・手紙・切手等)に続き、この度、最終巻となる第4巻(衣装・写真・ポストカード・小物類等)が完成し、その全貌を皆様にお届けできることになりました。

そこで企画展の一角に、10周年を記念して、過去の展示リーフレットとカタログの展示・閲覧コーナーを設けます。是非ページをめくって、バレエの歴史・文化・魅力をお楽しみください。

Kenji Usui Ballet Collection

“The Red Shoes”

～ around the ballet film ～

2015/10/20(Tue.)～2015/11/23(Mon.)

© 企画・監修

関典子(せき・のりこ / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)
Noriko Seki (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

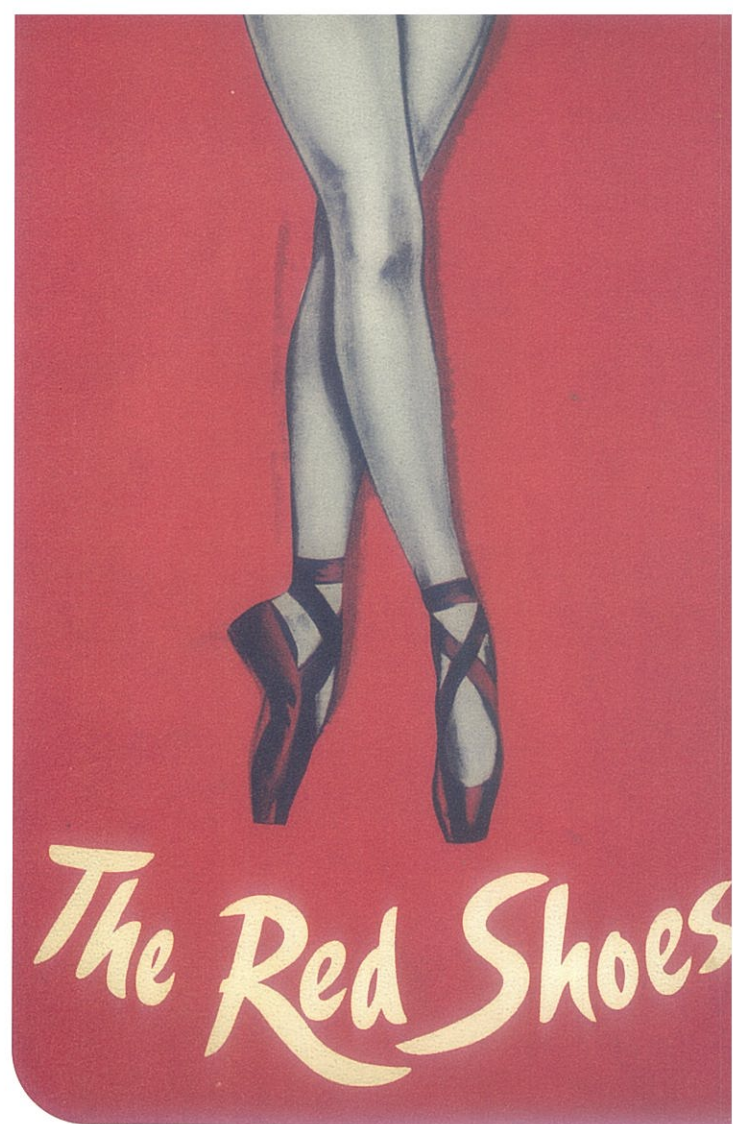
舞踊家・振付家・舞踊研究家。幼少よりクラシックバレエを学び、18歳でコンテンポラリーダンスに転向。お茶の水女子大学大学院博士後期課程を経て、現在、神戸大学大学院人間発達環境学研究所准教授。日本ダンス評論賞・兵庫県芸術奨励賞・神戸市文化奨励賞等受賞。

多賀成美(たが・なるみ / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター)
Narumi Taga (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション 担当

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22 tel : 0798-68-0223 (代表) fax : 0798-68-0212

禁転載・複製・引用



Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二 バレエ・コレクション
2015 企画展

赤い靴

～ The Red Shoes ～

2015/10/20(Tue.)～2015/11/23(Mon.)

1950年3月、有楽座で一本の洋画が日本初公開されました。アンデルセン童話『赤い靴』をベースに綴られる、バレリーナの悲劇。テクニカラーで彩られた観たこともない映像世界は観客を魅了し、世界中で大ヒット。日本でも空前のバレエ・ブームが巻き起こり、街にはバレエ教室が続々と出現。靴業界では『赤い靴』が流行したと言われています。

1948年のイギリス映画、巨匠マイケル・パウエル&エメリック・プレスバーガー監督『赤い靴』は、当時、世界的に輝きを放っていた英国バレエ界の実力が映画芸術と見事に融合した不朽の名作です。「赤毛のバレリーナ」モイラ・シアラー主演、ロバート・ヘルプマンとレオニード・マシーンが振付・出演。物語の軸はバレエ・リュスをモデルにしたとも言われ、映画の中盤に登場する約15分のバレエ『赤い靴』の衝撃は、時を越え、今なお人々の心をとらえてやみません。本展では、当コレクション所蔵のポスター・プログラム・写真を中心に、映画に登場する様々なバレエ作品の歴史的な資料と共に、バレエ映画の金字塔『赤い靴』の魅力に迫ります。

「愛を選ぶのか、踊り続けることを選ぶのか——」。2つの間で揺れる心を描き、芸術に生きる者の宿命について、鋭く語りかける映画『赤い靴』。——あなたなら、どちらを選びますか?赤い靴を、履いてみますか?

Hyogo Performing Arts Center



～映画『赤い靴』とは～

原題『The Red Shoes』。イギリス映画。監督マイケル・パウエル、エメリック・プレスバラー。主演モイラ・シアラー。公開1948年。当時ロイヤルバレエ団に在籍していたシアラーを主演に、バレエ団（ディアギレフのバレエ・リュスがモデル）の舞台裏の人生と愛を劇的に描き、公開当時、世界中でバレエ・ブームを巻き起こす。アンデルセンの『赤い靴』に基づく劇中バレエ（振付ロバート・ヘルプマン）は見応え充分。靴屋の振付を自作自演した『動く』レオニード・マシーンが観られるのも、この映画の醍醐味の一つである。その他、『レシルフィード』『風変わりな店』等、20世紀前半のバレエ作品も含まれており、観る度に発見がある。1993年、本作をもとにブロードウェイでミュージカル版が誕生。ラー・ボヴィッチ振付のバレエ・シーンはアメリカン・バレエ・シアターのレパートリーに採用された。

◆ 主な受賞歴

- 1948年「第21回 アカデミー賞」劇映画音楽賞、美術監督・装置賞 受賞
- 1948年「第6回 ゴールデングローブ賞」作曲家賞 受賞
- 2009年「第62回 カンヌ国際映画祭」カンヌ・クラシック部門 出品
- 2010年「第44回 全米映画批評家協会賞」映画遺産賞 受賞

◆ あらすじ

ロンドンのバレエ団の主宰者ボリス・レルモントフに見出されたバレリーナのヴィクトリア・ベイジと作曲家のジュリアン・クラスター。両者は新作バレエ『赤い靴』の主役と作曲に抜擢され、世界的なヒットとなる。一躍プリマへと上り詰めたヴィクトリアと、作曲家としての野心を抱き続けるクラスターは互いに惹かれ合い、いつしか恋仲となっていく。

2人の変化に気づいたレルモントフは、「バレリーナに必要なのは踊りへの情熱だけだ。他のことに気をそらしているは成功できない」と、ヴィクトリアに恋を捨てるよう説得する。彼女は、まるで童話の『赤い靴』と同じように、踊り続けなければならない立場となり、バレエと愛の狭間で苦悩し、悲しい結末へ……。ヒロインの2つに引き裂かれる恋は、酔いしれるほどに美しいバレエ・シーンの中で、ひととき切なく哀しく響く。

アンデルセン童話『赤い靴』をベースに描かれる「全てを犠牲にして、芸術のために生きることができると」というテーマは、現代の我々にも刺激的に響き、今なお斬新な光を放つ。テクニカル（彩色技術）や合成を駆使し、映像技術に革新を与えたとされる劇中バレエは、世代を超えて語り継がれるべき、衝撃的な芸術である。

～映画『赤い靴』に登場する バレエの数々～

◆ 『白鳥の湖』 Swan Lake

（ビョートル・チャイコフスキー作曲 / 初演1877=ヴェンツェル・ライジンガー振付 / 蘇演1895=マリウス・プティパ&レフ・イワノフ振付 / ロシア初演・蘇演）

ロンドンの由緒あるマリーキュール劇場で踊るヴィクトリアを、客席から見つめるレルモントフ。モンテカルロ歌劇場で踊る彼女に指揮台から投げキスを送るクラスター。そして、ヴィッキーがバレエ団を去った後、呼び戻された先輩バレリーナ、ボロンスカヤの舞台の3つの場面で登場。『眠れる森の美女』『くるみ割り人形』と並ぶチャイコフスキー作曲3大バレエの一つとして、あまりにも有名な古典バレエ作品だが、現代では男女2人で踊られるグラン・アダージョと呼ばれる名場面に、もう1人男性ダンサーが加わっている点や、短いチュチュではなく長いスカート衣装が使用される等、当時のスタイルが垣間見られるのも非常に興味深い。

◆ 『ジゼル』 Giselle

（アドルフ・アダマン作曲 / ジャン・コラーリ&ジュール・ペロー振付 / 1841 / フランス初演）

パリオペラ座ガルニエ宮でのドレスリハーサルで、ボロンスカヤは婚約を発表。本番を踊る彼女に、レルモントフは冷ややかな視線を向け、舞台袖で「バレエと結婚の両立は不可能だ」と切り捨てる。結婚を目前にして亡くなった娘達が亡霊となり、夜中に森に迷い込んできた若者を死ぬまで踊らせるというオーストリア地方の伝説に着想を得て作られたロマンティックバレエの代表作。

◆ バレエ・リュスの人気作品

『風変わりな店』 La Boutique Fantasque

（レオニード・マシーン振付 / ジョアキーン・ロッシェニ作曲 / オットリーノ・レスピーギ編曲 / 1919 / イギリス初演）

『コッペリア』 Coppélia

（アルテュール・サン・レオン振付 / レオ・ドリーブ作曲 / 1870 / フランス初演）

『レ・シルフィード』 Les Sylphides (Chopiniana)

（ミハイル・フォーキン振付 / フレデリック・ショパン作曲 / 1907 / ロシア初演）

新作バレエ『赤い靴』を大成功させたレルモントフ。その後ヴィッキーは、バレエ団のレパートリーに次々と主演していく。選ばれた演目はいずれもバレエ・リュスの人気作品で、主演モイラ・シアラーのバレリーナとしての魅力をよく伝えている。機械仕掛けの人形たちが賑やかに踊る『風変わりな店』は、シアラーが所属していたサドラーズウェルズ・バレエ団（現ロイヤルバレエ団）で1947年に再演され、振付家であるレオニード・マシーン自身が相手役に新進のシアラーを大抜擢した記念すべき演目。人形職人コッペリア博士と人形コッペリアが繰り広げる喜劇『コッペリア』では、コケティッシュなヒロインのスワニルダをチャタリングに演じ、空気の精シルフィードと詩人が月明かりの森で踊る『レ・シルフィード』では、ロバート・ヘルプマンとの美しいバド・ドゥを披露している。

～映画『赤い靴』をめぐる人々～



【原作】
ハンス・クリスチャン・アンデルセン
Hans Christian Andersen
1805～1875

デンマークの詩人・作家であるアンデルセンは、一時期ダンサーとしても活動し、1812年、C. ダーレンの「アルミーダ」で初舞台。また、ロマンティックバレエの代表的振付家オーギュスト・ブロンノヴィルと親交があり、『人魚姫』（ハンス・ベック振付、フィニ・ヘンリケス作曲、コペンハーゲン、1909）、「妖精の口づけ」（原題『雪の女王』プロニスラヴァ・ニジンスカ振付、イーゴリ・ストラヴィンスキー作曲、パリ、1928）、「裸の王様」（原題『皇帝の新しい着物』セルジュ・リプアール振付、音楽ジャン・フランセ、パリ、1936）等、アンデルセンの童話の多くがバレエの原作に用いられている。アメリカ映画『ハンス・クリスチャン・アンデルセン』（チャーエズ・ヴィンダー監督、1952）では、ローラン・プティ振付、プティ&ジジジャンメールが踊る『人魚姫』を観ることができる。



【主演】
役名 ヴィクトリア・ベイジ
モイラ・シアラー
Moira Shearer 1926～2006

イギリスのダンサー、女優。北ローデシア（現在のザンビア）でバレエを始め、イギリスでフローラ・フェアバーンに師事。1942年にサドラーズウェルズ・バレエ（現ロイヤルバレエ）入団、1946年『眠れる森の美女』でプリマとして脚光を浴びた。明瞭で洗練されたスタイルは当時のイギリス人ダンサーに特徴的だった詩情とは一線を画すものであった。だが、その個性は一方ではキャリアの妨げともなり、また、わずか22歳での『赤い靴』（1948）の成功は「ホフマン物語」（1951）、「彩られし幻想曲」（1955）、「フラック・タイム」（1960）と相次ぐ映画出演のきっかけとなり、バレエへの専念を困難にしたとも言われている。1950年、ジャーナリストで作家のルドヴィク・ケネディと結婚、1男3女が生まれ、幸福な結婚生活を全うする。1953年頃から女優業に比重を移し、その傍ら執筆活動も行う『バレエ・マスター・ジョージ・バラジンのダンサーの視点』（1986）等。



【出演・振付】
役名 クリシ・リュボフ
レオニード・マシーン
Léonide Massine 1895～1979

ロシア＝アメリカのダンサー、振付家、バレエ・マスター、教師。20世紀において最も影響力を有し、最も論議を呼んだ振付家の一人。1912年、ポリジョイバレエ学校を卒業し、ポリジョイバレエ入団。1914年、バレエ・リュス団長セルゲイ・ディアギレフに見出され、ミハイル・フォーキン振付『ヨゼフ伝説』（リハルト・シュトラウス作曲）に主演、ワツラフ・ニジンスキーに代わる花形ダンサーとなる。『夜の太陽』（リムスキー＝コルサコフ作曲、1915）で振付家デビュー。その後、『バラード』（エリック・サティ作曲、1917）、「三角帽子」（テ・ファリヤ作曲、1919）等を発表。ディアギレフの死後、バレエ・リュス・ド・モンテカルロの旗揚げに関わった他、数々のバレエ団との仕事や自身の一座『バレエ・リュス・ハイライツ』を率いて巡演。映画『赤い靴』では、自身が演じる『靴屋』を自作自演する他、代表作『奇妙な店』（ジョアキーン・ロッシェニ作曲、オットリーノ・レスピーギ編曲、1919）も登場。映画『ホフマン物語』（1951）にも振付・出演している。



【出演・振付】
役名 イヴン・ホスラフスキー
ロバート・ヘルプマン
Sir Robert Helpmann
1909～1986

オーストラリアのダンサー、振付家、監督、俳優。幼少期にバレエを始め、一時期はアンナ・バヴロワにも師事。ミュージカルレヴューで活躍後1933年に渡英、ヴィック＝ウェルズ（後のサドラーズウェルズ）バレエ入団、1934年プリンシパル昇格。生き生きとした演劇的表現力や音楽性、舞台上でのカリスマ性に優れ、クラシックバレエの王子役を優雅に演じる一方、現代作品では喜劇と悲劇の双方で印象的な役柄を造形した。マコーット・フォンテインと優れたパートナーシップを築き、英国バレエの普及に大きく寄与。1942年に映画デビュー、『赤い靴』は彼にとっての4本目の出演作であり、振付も担当。その他の出演映画に『ヘンリー5世』（1945）、「ホフマン物語」（1951）、「チキ・チキ・パン・パン」（1968）等がある。1973年、バレエ映画ルドルフ・ヌレエフ版『ドン・キホーテ』を監督・主演。1976年オーストラリア・バレエ監督退任後も、折々にキャラクター役で舞台上に立ち続けた。晩年はバレエの後進指導にも尽力。1968年ナایت爵。

この他にも、プリマ・バレリーナのイリーナ・ボロンスカヤ役をリュドミラ・チェリーナ（Ludmila Tchérina 1924～2004）が演じ、『英国バレエの母』として名高いマリー・ランベール（Marie Rambert 1888～1982）が本人役として登場するなど、当時のバレエ界の総力を結集した驚くべき豪華キャストिंगも魅力である。

『赤い靴』初演翌日の稽古場では、マシーン演じるリュボフが、シアラー演じるヴィクトリアに対して、「気分はどうだい？あ程度の拍手、歓声、花束が何だ。昔見たバヴロワ、カルサヴィナに比べりゃ——まずまずの出来だ。悪くない。才能はある。正直に言おう。素晴らしいかったよ。」と語る印象的な場面がある。アンナ・バヴロワ（Anna Pavlova 1881～1931）、タマラ・カルサヴィナ（Tamara Karsavina 1885～1978）が引き合いに出され、セルゲイ・ディアギレフ（Sergei Diaghilev 1872～1929）率いる「バレエ・リュス」（Ballets Russes 1909～1929）をモデルにした映画『赤い靴』は、バレエ史を読み解き追体験するという、スリリングな醍醐味も備えている。

